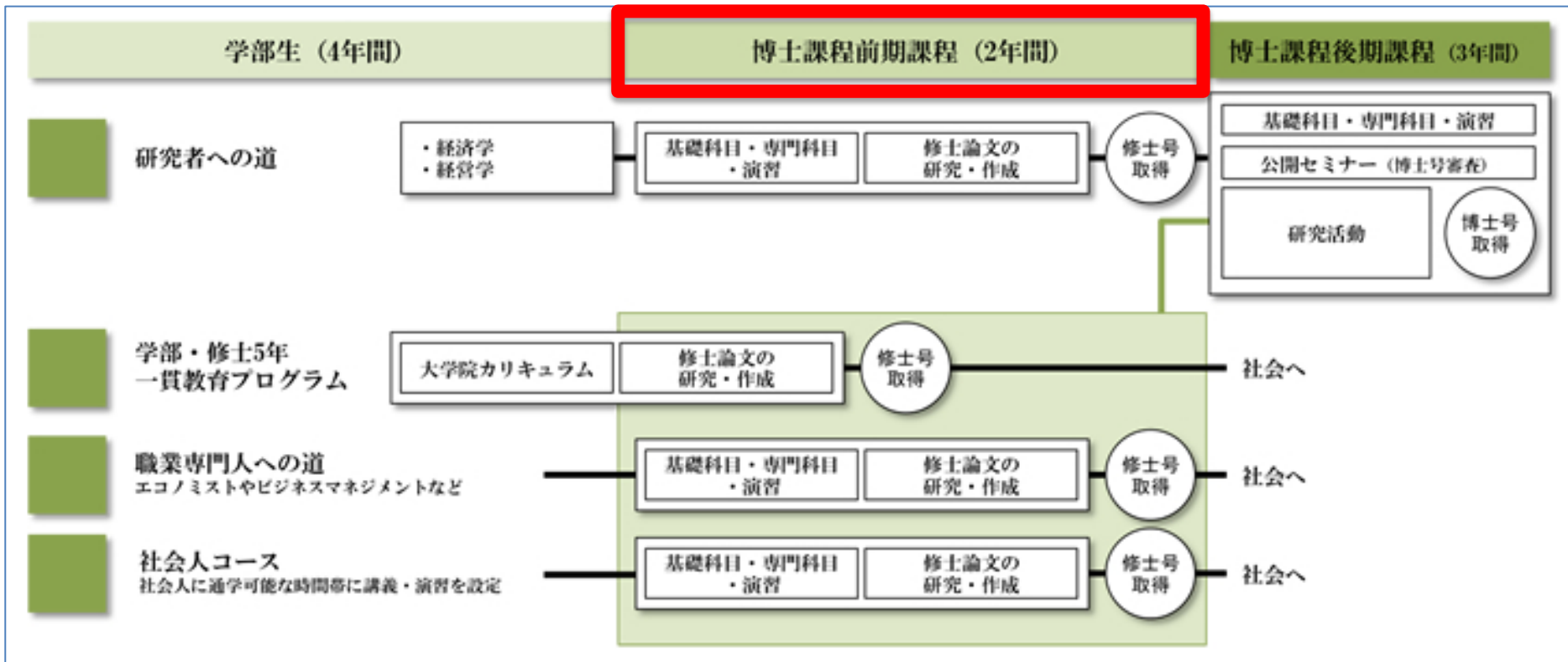




博士前期課程の概要

教務委員長
工藤 教孝

大学院教育課程の全体像



用語集

- 博士前期課程＝修士課程とも呼ばれる
 - 1年生＝M1
 - 2年生＝M2
- 博士後期課程
 - 1年生＝D1
 - 2年生＝D2
 - 3年生＝D3
 - それ以上＝オーバードクター

大学院教育の柱は講義と演習

- 博士前期課程のゴール：
 - 修士論文を完成させ、人生を次のステージ(就職または進学)に進めること。
- そのゴールに向けて、
 1. 講義： 高度な専門知識を獲得
 2. 演習： 修士論文を完成させる
- 具体的な育成方針は研究室ごとに異なる。
 - 後期課程進学を見据える場合、「どの研究室か」が特に重要。

大学院の開講科目例（2022年度） 全科目のリストはハンドブックをご覧ください

分野	基礎科目	専門科目	課題設定型講義・ワークショップ
理論・政策	上級価格理論Ⅰ・Ⅱ 上級所得理論Ⅰ・Ⅱ 上級計量経済Ⅰ・Ⅱ 上級数理経済Ⅰ・Ⅱ 価格理論Ⅰ・Ⅱ 所得理論Ⅰ・Ⅱ エコノメトリクスⅠ・Ⅱ	国際経済 A・B 公共経済 A・B 経済政策 A・B 農業経済 A・B 労働経済 A・B 産業組織 A・B 財政 A・B 金融 A・B	ミクロ・マクロ経済分析：理論と実証 ミクロ実証論文の読み方 日本経済論 財政政策 International Communication（英語）
制度・歴史	上級政治経済学Ⅰ・Ⅱ 上級経済史Ⅰ・Ⅱ 上級経済学史Ⅰ・Ⅱ	現代資本主義 A・B 経済学史 A・B 社会思想史 A・B 日本経済史 A・B 西洋経済史 A・B	
経営・会計	上級経営Ⅰ・Ⅱ 上級会計Ⅰ・Ⅱ マネジメントⅠ・Ⅱ アカウンティングⅠ・Ⅱ	経営労務 A・B ファイナンス A・B 生産管理 A・B マーケティング A・B 経営組織 A・B 経営戦略 A・B 財務会計 A・B 管理会計 A・B 監査 A・B 経営分析 A・B 国際会計 A・B 経営情報 A・B	経済体制と企業経営 Introductory Accounting（英語） 現代経営論 人事管理 危機管理論 知財戦略 企業の海外戦略 金融・ファイナンス 組織論学説研究

講義

- 分野により育成方法が異なる。
 - 理論・政策分野(=経済分析系)の場合を紹介。
- 基礎科目：
 - 新入生の多くが「上級所得理論」(=大学院レベルのマクロ経済学)や「上級価格理論」(=大学院レベルのミクロ経済学)などの基礎科目を受講。
 - 毎週の宿題などを通じて、大学院レベルの研究を行うために必要な基礎学力を磨く。技術獲得。
- 専門科目：
 - 「国際経済」「財政」「金融」などの専門科目では、最新論文を読むなど、研究の最先端を学ぶ機会を提供する。

演習（ゼミ、研究室）

- 所属する研究室単位で指導教員から研究指導を受ける。
 - 修士1年目から研究室に所属し、修士論文を提出するまで継続して研究指導を受ける。
 - 大学院合格時点で研究室が決まっている。
 - 漠然と「名古屋大学に入りたい」は不十分。
 - 入りたい研究室を明確にする必要。
- 具体的な指導方針は研究室ごとに異なる。
 - 説明会HPの研究室紹介スライド、さらには研究室HPを参照のこと。

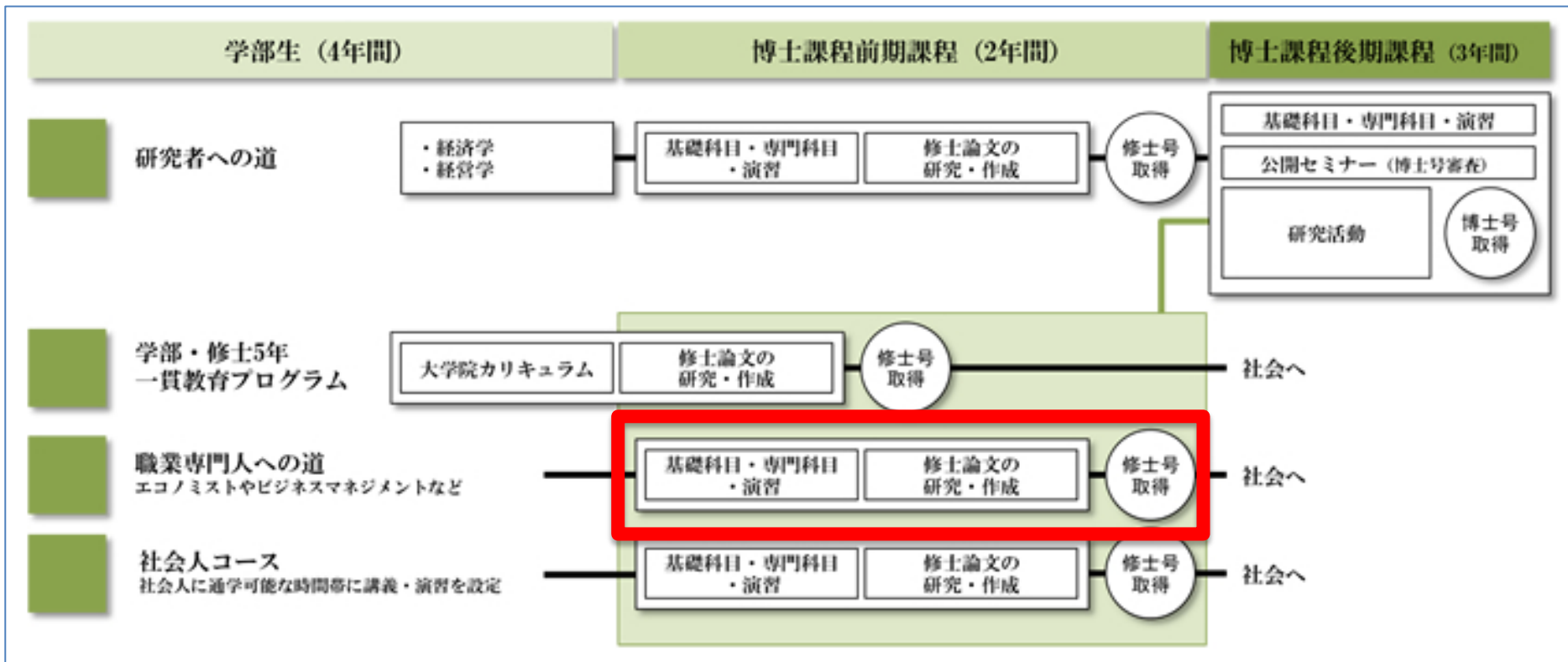
「修士1年目から研究室」の意味

- 他大学の大学院の中には「研究室が決まるのは修士2年目から」というところも。
 - 選抜では筆記試験等の客観的基準が優先されると考えられる。研究室ではなく大学を選ぶ。
 - 希望する研究室が満員御礼の場合、大学院には合格できるかもしれないが、希望の研究室に入れない可能性。事後的なミスマッチ発生。
- 名古屋大学の場合、大学院と研究室の選抜が同時に行われる。
 - ミスマッチの無い状態で入学できる。
 - 「研究室に出願する」という意識が必要。

ミスマッチを減らすために

- 希望する「研究テーマ」と「研究手法」が研究室と合致しているかどうかを判断する。
 - 研究テーマ： 国際経済学や財政学などの分野、ならびに具体的な問い。多岐にわたる。
 - 研究手法： データ分析、数理モデルの構築・解析、シミュレーション、など、学術的な問いに答える手段。
- 大学生が今現在思い描いている「テーマ」や「手法」に固執するのは得策ではない。
 - 大学院で最先端の研究を学ぶ、という謙虚さ。
 - 「研究室に飛び込む」オープンな気持ち。
 - ただし、「ここだけは譲れない」を明確に。
 - 絶対にデータ分析をしたい、絶対に財政問題に関わりたい、絶対にシミュレーションしたい、絶対にゲーム理論を使いたい、など。

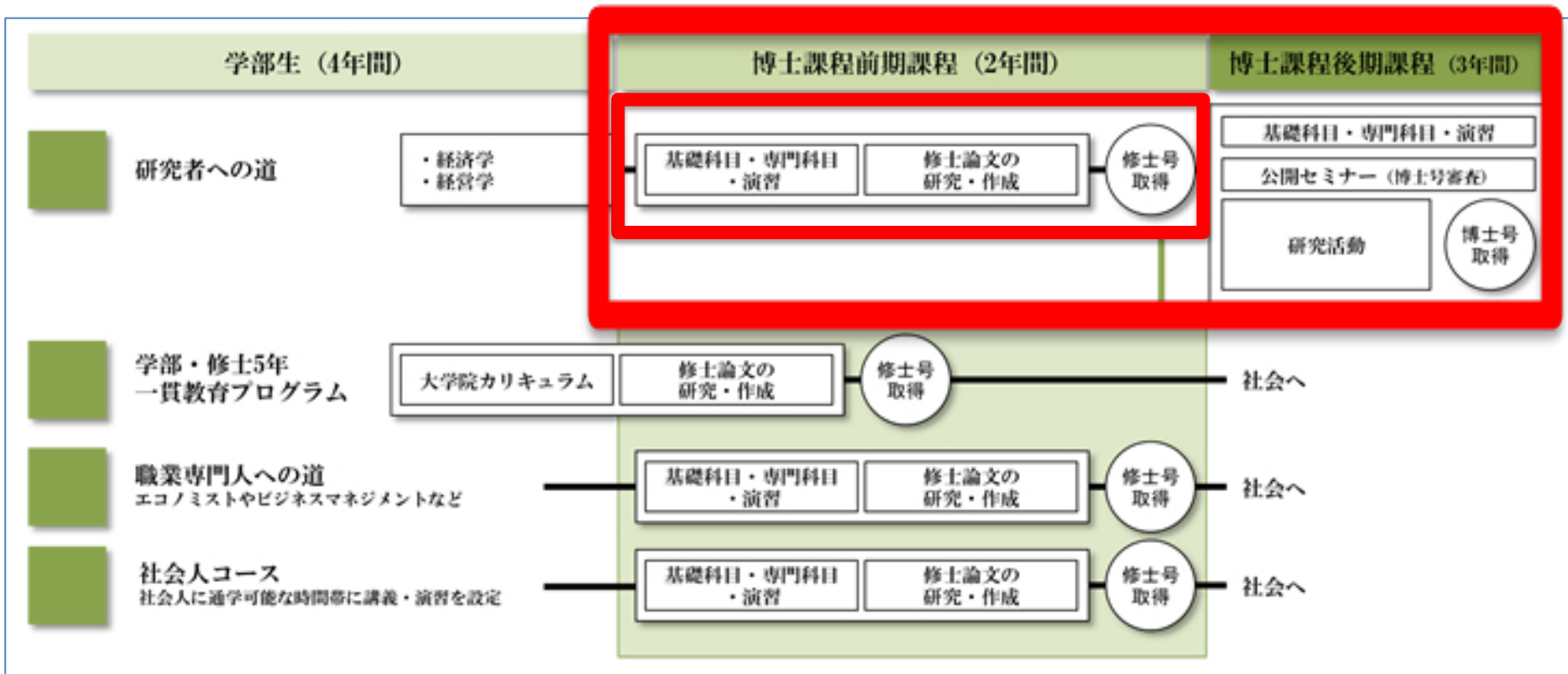
大学院教育課程（進学なし）



大学院教育課程（進学なし）

- 博士後期課程に進学しない場合、インターンシップや就職活動と学業が同時進行。
- 一般的には、修士1年目は科目履修に軸足を置き、2年目は就職活動と修士論文。
- 一般的には、進学しない学生の修士論文に要求する学術レベルはやや引き下げられる。
 - 既存研究の再現・追試。
 - 既存研究のサーベイ。
 - 独創性はあまり求めない。

大学院教育課程（進学あり）



大学院教育課程（進学あり）

- 後期課程に進学（を希望）する場合、前期課程は5年間のうちの2年という位置づけ。
- 一般的には、修士1年目は科目履修に軸足を置き、2年目は修士論文に専念。
 - TOEFLなどの英語スコアの準備を早めに進める。
- 一般的には、進学する学生の修士論文に要求する学術レベルはやや高くなる。
 - 日本語論文不可という研究室も。
- 後期課程の説明会は本日16時開始。
 - 是非あわせてご参加ください。

大学院の概要を知る

- 大学院紹介パンフレット：
<http://www2.soec.nagoya-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/1b6f446574c905f65ced8d8a127d548f.pdf>
- 各研究室の紹介(説明会HP内の教員名をクリック)：
<http://web.soec.nagoya-u.ac.jp/setsumei2023/>
- 大学院ハンドブック(開講科目や修了要件などの詳細はこちら)：
<http://www2.soec.nagoya-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/03/db7fec463c9c4627582ed511b448da14.pdf>

